

# 地域における持続的な歴史的建造物の修理システム構築等検討調査

■調査実施地域:福島県白河市

■調査実施者:特定非営利活動法人「しらかわ建築サポートセンター」

壁や瓦の伝統的材料が  
入手できない

伝統工法の修理方法が  
わからない

左官、瓦職人の  
手配ができない

所有者の伝統工法に  
対する意識が低い

伝統工法の修理がわかる  
専門家がいない

○サイディングなどによる応急修理で伝統工法の良さが失われ、歴史的景観が損なわれる。  
○遠方から材料や職人を調達し、工費が高くなり時間もかかる。

○土壁の良さ(保温、防火性能など)が維持できない。  
○修理をまたずに取り壊される蔵もでてきた。

## 課題1 地元での材料調達手法

破損した伝統工法による  
土蔵のモデル修理を通じ  
各種材料の調達を試みた

## 課題2 選択できる修理工法開発

破損した伝統工法による  
民家のモデル修理を通じ  
いくつかの工法を実験した

## 課題3 職人確保や人材育成

2つの工事を研修の場として  
職人の確保や  
人材育成を試みた

特に外壁、瓦の材料調達と工法開発人材育成に力をおいて検討

### 土、稲藁・ツタ、瓦について 入手や加工の方法が判明

#### 【壁土】

- 休耕地になっている「ネバとり場」から壁土が採取できることが判明
- 所有者と契約すれば持続的な壁土の採取が可能であることを確認

#### 【稲藁、ツタ】

- 農家等と契約すれば入手可能と判明
- 市販品で代替可能と判明
- 「稲藁カッター」による機械化が可能と判明

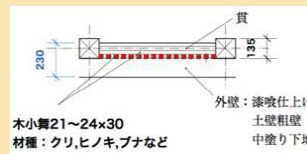
#### 【真竹、篠竹】

- 真竹や篠竹の自生場所を確認
- 加工の手間や保管場所の確保が課題と判明
- 下地である竹の代替(木小舞など)解決方法を考案

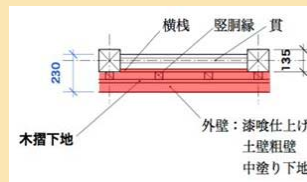
#### 【瓦】

- 既製品の瓦を使用・裁断しサイズを合わせ、釉薬で色を調整することで、安価に製造できることが判明
- 小規模な窯元への発注により類似品を製造できることが判明

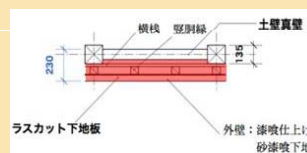
### 複数の工法を考案し 実験的に施工



①調達困難な下地材の見直し



②工期(工費)短縮のための工法Ⅰ



②工期(工費)短縮のための工法Ⅱ

### 指導者役となるベテラン職人 近隣市の意欲ある 若手職人を発掘



ベテラン職人の指導



那須町の職人が参加した修理工事